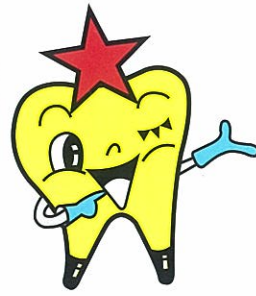


夢みる こども基金



No. **8**

〈平成15年〉
9月15日

発行:夢みるこども基金事務局

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-6 赤坂Sビル2F ☎ 092-751-0021 FAX 092-751-0249

ホームページ:<http://www.standbyyou.com/yumemirukodomo> Eメール:yumemirukodomo@standbyyou.com

こどもたちの夢を担う! 盲導犬

「夢みるこども基金」

はつくくん1号

こどもたちの夢を担い、全国の歯科医院から寄託された歯の金属冠リサイクルで得た浄財で目の不自由な人を助けようと、夢みるこども基金が送り出した盲導犬の第一号だ。

一昨年春のこと。夢みるこどもキャンペーンの柱である「夢作文・絵コンクール」は、

平和な世界を願う心、環境問題、高齢者対策などのほかに、目の不自由な人たちの助けになりたいという、思いやりの作品が目立った。

このコンクールで入賞したこどもたちは「こども会議」で福祉について話し合い、これを受けた同年

夏の第七回イベント

では「バリアフリーの社会を作ろう」のテーマでシンポジウムを催し、福岡盲導犬協会への盲導犬贈呈を決めた。

こうして誕生したのが「はつくくん1号」。

平成十三年三月三十一日福岡県内で生まれたイエローのラブラドル・レトリバーの雌。通称エンジェル。



盲導犬になるためには、「三回の『別れ』が宿命という。『はつくくん1号』もブリーダー(産みの親)から同県内のパピーウォーカー(育ての親)の家に移り、一年後、前原市の同協会盲導犬訓練センターで盲導犬としての本格的な訓練を受けた。昨

年末のクリスマス前に、中途失明者である同県筑紫野市の主婦、脇崎恵子(四一)のパートナーとして第一歩を踏み出した。ことし春。福岡市で開かれた第九回こども会議の席上、基金理事の中村直福岡県歯科医師会副会長からハーネス(綱)をつけた「はつくくん1号」が、福岡盲導犬協会・大山徳次郎常務理事と使用者の脇崎さんに、正式に手渡された。

「はつくくん1号」は、いま脇崎さんの「目」となり、先導役となって懸命に働いている。

八月三日、福岡市のアクロス福岡・国際会議場で催された2003年夢みるこどもキャンペーン・第九回イベント「日本心の心 イラクのこどもたちへ」の会場へ元気な姿を見せ、PRに役買った。

2003 夢みるこどもキャンペーン

第九回イベント

日本の心を イラクのこどもたちへ

多くの人々が犠牲となったイラク戦争…世界各地でこどもたちの夢を逆なでするような戦争、内乱が相次ぐ。そんな中で、2003年夢みるこどもキャンペーン・第九回イベント『日本の心を イラクのこどもたちへ』は、8月3日、福岡市中央区天神「アークロス福岡・国際会議場」に、全国から集まったこども代表、保護者、一般市民ら約320人が参加して開かれた。イラクのこどもたちへ贈るための、こ

どもたちのパッチワーク作成、竹馬、竹トンボ、コマなど日本古来の遊具作り、イラク現地を見てきた基金理事のアグネス・チャンさんらのスライドショーと講演などが約三時間にわたって繰り広げられた。ことしのイベントは、戦争のない世界平和を願うこどもたちの『祈り』の一日でもあった。

空高く飛ばしてね…



▲ お母さんも加わり竹馬づくり

竹馬・竹とんぼ

日本の昔からの遊びの代表ともいえる、これらの遊びはやはり男の子に人気だった。しかし、遊んだことはあるものの作ったことはないという子がほとんどで、指導者のおじさんたちの指先を、真剣なまなざしで真似して奮闘していた。危なっかしい手つきでカッター・ナイフを握るこどもたちに、



▲ 竹とんぼづくり

優しく教えながらも指導者の方々も童心に戻り、自ら楽しんでいようだった。初めて自分の手で作った竹とんぼ、「記念に持って帰っていいよ」と言われたときの笑顔がとても印象的だった。
イラクのこどもたち、緑の大地を竹馬で踏みしめ、竹とんぼを青空高く飛ばしてほしいと切に願う。

おて玉にも戦争の無意味さ実感

お手玉

「ひとつ、ふたつ、みつっ…」器用に小さな玉を操るこの遊びは、昔から女の子の子に親しまれてきたものだ。材料は余りものの布きれと、大豆や小石、後は針と糸さえあれば出来るという。簡単で、それでいて大勢で楽しめるといふ人気もの。まるでおばあちゃんがかわいい孫に教えるかのように、作り方を丁寧に指導していく中、一人のおばあちゃんがふいに口ずさんだわらべ歌のひとつふし。



▲女の子たちはお手玉・折り紙づくりに集中

おて玉に合
わせて、昔を
思い出すかの
ように体にし
みこんだ歌詞
をつらねてい
く。日露戦争
の歌だ。イラ
クは今まさに
そんな戦争の
渦中にある。
最後にその
おばあさんは
言った。「昔、
この歌は日本
の勝利を願う
ためによく歌

ったもの。でも今は、逆に私たちにとって、この歌を思い出す度に、戦争の無意味さを実感させられる」と。その言葉に誰もが、無言のまま目を潤ませていた。

イラクのこどもたちの笑顔を求めて、昔の遊びをテーマとしたこの集い。しかし、思わぬところでまた戦争について考える機会となった。



▲パッチワークの仕上げ作業

初めて回してみよううれしそうなお顔

こま

お正月の遊びの代名詞として使われる「こま」。こどもたちの仕事はこまの色塗りだ。絵の具を使つての作業、ここにもこどもたちの性格が表れる。色んな色を混ぜて使う子や、原色そのまま使う子、何を思いながら描いているのだろう。手や洋服の汚れに気付かないほど、みんな熱中していた。そして、思いを込めて出来上がったこまを初めて回してみる嬉しそうなお顔。よく回る子、回らない子、本当にこどもらしい可愛い表情だった。これが、そのままイラクのこどもたちに重なるのだろうか。



▲こまづくりに取り組むこどもたち

通りがかりの婦人たちが「ご苦労さん」と励まし

ラブウォーク



▶ 天気にも恵まれ、街頭の人々からの声援も

第九回イベントに参加したこどもたちと保護者たちは、三日前、

宿舎の福岡市天神の天神センターホテルから会場のアクロス福岡までの約四百メートルをラブウォークした。

夢みるこども基金の横断幕を先頭に、盲導犬「夢みるこども基金・はつくん1号」とパートナーの脇崎恵子さん、理事長代行の秋山治夫・福岡県歯科医師会会長、理事のアグネス・チャンさんが前列に並んで行進した。

こどもたちも通行する一般市民にイベントのビラを配布、キャンペーンへの協力を呼びかけた。通りがかりの婦人たちから「がんばって」「ご苦労さん」と、励ましの声をかけられ、寄付をしてくれた人もいた。

スライドショー！講演

一番大切なのは命

日本ユニセフ協会大使

アグネス・チャンさん

歌手、大学教授など多彩な活動をしている基金理事のアグネス・チャンさんは、今年六月末、日本ユニセフ協会大使としてイラク入りし、戦争の傷跡が生々しいバスラ地方を歩いた。

「戦争と平和を考える」と題し、飲料水のないイラクの人たちの生活、医薬品のない病院で泣くこどもたち：スライド映像をもとに報告。「この世で一番大切なものは命。これを奪う行為はどんな理由であれ、あってはならない。こどもたちのために戦争のない平和な世界を実現したい」と述べた。

「人間の盾」に参加

日本バプテスト連盟

伊都キリスト教会牧師

木村 公一さん

日本バプテスト連盟伊都キリスト教会（福岡市西区）の牧師、木村公一さん（55）は「イラク戦争で感じたこと」と題して講演。

木村さんは、今年三月から四月まで、バグダード中心部から北へ15キロのバグダード北変電所に「人間の盾」として滞在。参加した理由は二つ。一つは平和を広めるはずの宣教師たちまでが、この戦争を支持したこと。二つ目は、日本政府が米国に同調、「他に道はない」という理由でイラク戦争を押し進めたこと。戦火の下「イラクを去れば、自分の心から平和が去ってしまう」という自分の聖なる心に従い、イラクに残り続けたと熱っぽく語った。



▲ 聖なる心に従いイラクに残ったー木村牧師



鮮やかな巨大パッチワーク

今回のメイン、イラクのこどもたちへ贈るこのパッチワークは日本のこどもたちが描いた夢のイラスト30枚をつなぎ合わせ忠実にパッチワークにしたものの縦横・約2メートルの巨大パッチワークは、福岡市中央区のパッチワーク教室「キャリコ」の三池道さんらの協力により、作業が行われた。竹馬、竹トンボ、めんこなど計三二〇点とパッチワーク一張り、教材費として三十万円が、こどもたちから十月にイラクを再訪問する木村公一さんに託された。木村さんは「イラクの学校、病院、教会などを回り、現地のこどもたちへ必ずとどけます」と約束した。

1 お菓子でできた家を食べてみたい	7 田舎に住んでみたい	13 釣り名人になりたい	19 夜汽車に乗って空を走りたい	25 宝塚の舞台に立ちたい
2 見たこともない大きな魚をつりたい	8 駅員さんになりたい	14 パラグライダーで鳥たちと遊びたい	20 ダンスの大会でグランプリをとりたい	26 やさしい保母さんになりたい
3 日本一周旅行をしたい	9 気球に乗ってヨーロッパ旅行をしたい	15 消防士になりたい	21 鷲に乗って富士山を近くでみたい	27 人工衛星を作りたい
4 魔法使いになりたい	10 パイロットになって世界中を旅したい	16 フクロウの背中に乗って空を飛ぶたい	22 ハリーポッターに会いたい	28 看護師になりたい
5 小説家になりたい	11 夜空を散歩したい	17 陶芸家になりたい	23 恐竜の化石を掘り出したい	29 恐竜を発見して自分の名前をつけたい
6 アリになりたい	12 鳥の背中に乗って大空をはばたいてみたい	18 警察官になって暴走車を取り締まりたい	24 サッカー選手になりたい	30 画家になりたい

▲夢の内容/第9回「夢作文・イラストコンクール」の佳作以上の作品から30枚を選んでパッチワークに再現

開会式

いごもたちの夢づくりを
積極的に応援



▲秋山理事長代行

FBS福岡放送・古賀ゆきひとキャスターの司会で午前11時開会。理事長代行の秋山治夫・福岡県歯科医師会会長が「夢みるこども基金は九年を経過、着実に成果を上げている。これからも私たちは、こどもたちの夢作りを積極的に応援します」と挨拶した。

アグネス・チャン理事がこれまでのキャンペーンについて報告したあと、こども代表二十二人が紹介され、今回のイベントの原案になった作文の部・最優秀賞の北海道・黒松内中学校二年弘中香乃実さんが「わたしの夢」を朗読した。つづいて海外ボランティア事業をしている「ネパール歯科医療協力会」へ三十万円、「福岡ネパール児童教育振興会」と「バンガラデシユ・夢みるこども基金学校」には教材費として各十萬円の寄付金が、古川洋理事(FBS福岡放送取締役報道局長)から各団体代表に贈られた。

最後に、盲導犬「夢みるこども基金・はつくん1号」が、福岡盲導犬協会常務理事大山徳

次郎さんと飼育者の脇崎恵子さん(福岡県筑紫野市)とともに登壇。脇崎さんは「はつくん1号がいるだけで毎日がハッピーな気持ちになります」と感謝の言葉を述べた。

イベント前夜祭

四か月ぶりの再会

第九回イベント前夜祭は、二日夕、宿舍の福岡市天神・天神センターホテルで開かれた。こどもたちは春の「こども会議」から四か月ぶりの再会で、お互いの近況を話し合い、喜んで

夕食をとりながら、イスとりゲームなどのアトラクションを楽しんだ。前夜祭には、イラクのこどもたちへの「日本古来の遊具」や「パッチワーク」づくりに協力した福岡県浮羽郡田主丸町と福岡市のボランティアグループの人たちも参加した。



▲連想ゲームなどで盛り上がった

第九回イベント

テレビでもPR



第九回イ

ベント直前の七月二十日、FBS福岡放送の人気番組「めんたいワイド」に、長尾伶美実行委員(九州歯科大一年)と事務局スタッフら、女

性三人が出演。「夢みるこどもキャンペーン第九回イベント「日本の心を イラクのこどもたちへ」」をPRした。

同番組の街頭放送は三十一日午後四時すぎから、福岡市天神のイムズ前広場で行われた。「掲示板コーナー」の中で「はつくん」マークの基金の旗をバックに、イベントの内容を紹介し、テレビ画面を通して一般の人たちの参加を呼びかけた。

2003年

いごも会議

第九回イベントの テーマを熱心に討議

夢みるこども基金の第九回こども会議・盲導犬贈呈式は三月三十日、福岡市博多区、ベイサイドプレイス博多埠頭・ベイサイドホール

で開かれた。基金が全国の小中学生から募集した「わたしのかなえない夢」作文・絵コンクールで入賞したこどもたち、父兄・一般市民ら約百五十人が参加した。

会議は一、二部に分かれ、開会宣言のあと基金を代表して中村直理事(福岡県歯科医師会副会長)が「こどもの夢作文・絵コンクールの応募者数はこれまでの最多を記録した。私たちはたくさん作品の心を活かして活動していきたい」と挨拶。つづいて作文・絵審査の全体講評、キャンペーンの経過報告があった。

このあと、昨年春のこども会議で、参加したこどもたちが話し合って決めた盲導犬「夢みるこども基金・はつくん1号」の贈呈式が行われた。ハynesをつけた「はつくん1号」が中村理事から福岡盲導犬協会の大山徳次郎常務理事、使用者の福岡県筑紫野市天拝坂一十一十五、主婦脇崎恵子さん(四二)に手渡された。

会議は、作文・絵コンクール入賞者の表彰式に移り、作文の部で最優秀に選ばれた北海道・黒松内小学校六年、弘中香乃実さん(一二)ら作文の部二十人、絵の部十八人が表彰された。

席上、基金に寄付金を贈った福岡博多東ライオンズクラブ(横山真登会長)と、世界の恵まれないこどもたちのために校内で集めた浄財四万四千二百一十二円を寄託した福岡県粕屋郡篠栗町北勢門小学校六年一組(代表・今福聡君)に感謝状が贈られた。

第二部は、理事のアグネス・チャンさんと南日本放送キャスター陶山賢治さんがコーディネーターとなって進行、こどもたちの活発な意見が相次いだ。

今年三月イラク戦争が勃発したせいか、こどもたちの発言はイラクのこどもたちを気遣うものが多かった。そして八月に開かれるイベント「日本の心を イラクのこどもたちへ」が生み出された。

第九回夢みるこどもキャンペーン「私のかねえたい夢」最優秀作文

北海道 黒松内小学校六年（当時）

弘中 香乃実

母への感謝

多くの人へ優しさを
伝えられる人になりたい

私の夢は：私はそんなに難しく考えたことはありません。私が大人になってその夢をかなえられるか不安だったから：私は今、養護施設で暮らしています。施設で暮らしているのは、私と姉が幼いころに父と母が離婚してしまい、母は家を出て行き、父は幼い私と姉をめんどう見れないということで、里親にあずけられることになりました。そこで8年間私は幸せに暮らしました。里親は私と姉を自分の子供のように育ててくれました。でも、私が8才の時この施設「つくし園」にきました。施設に来たのはよくわかりません。つくし園で暮らすようになってから今までにはない自分を見つけました。楽しい時、苦しい時、いろんな気持ちになれる所です。つくし園には昔、坂本九さんやお笑いの方々がきています。そこで出会った人たちはとても輝いていました。でも、それを見る人達はもっと輝いていました。とても素敵な笑顔をしていて、私は「すごい」とびっく

りしました。たくさんの人に笑顔や、やさしさを伝えることのできる人になりたいと思いました。でも：私にできるのか？みんなを幸せにすることができると不安になりました。私はここであきらめてはいけません。この第1歩のスタートを全力で走りぬけていこうと思いました。そして私は、一番この気持ちを伝えたい人がいます。それは私の母。私と姉を、幼いころに捨てて出ていってしまった母に、なんで？と言



いた気持ちがあります。でも、一番伝えたいことは「私を生んでくれてありがとう」もし、私が生まれていなかったら、こんな素敵な夢が生まれなかったと思います。この大きな夢を、いつまでも大切にしたいです。



▲今年のイベントテーマを決めた第9回「こども会議」

戦争で傷ついたイラクの

こどもたちに何がしてあげたい

私たちの小さな夢が、たくさんの人々の協力で大きくふくらみ、きょう全国のこどもたちが福岡市に集い、夢みるこどもキャンペーンの第9回イベント『日本の心を イラクのこどもたちへ』を開きました。

全国から集まった21人のこども会議のメンバーとは、4月の『こども会議』で顔を合わせたただけでしたが、お互いにすぐに仲良くなり、一緒にパッチワーク作りや、昔ながらの日本の遊びのコマやお手玉を楽しむことができました。そして、このような遊具が届けられたときの、イラクのこどもたちの表情を様々に思い描いては、自然と笑顔になる自分がいました。

つい先のこと、イラク戦争が起きました。何の罪もない多くの住民やこどもたちが、命をうばわれました。私たちはメディアを通して、日夜繰り広げられるその悲惨な報道を目の辺りにし、がくぜんとしました。

自分たちと同じような歳のこどもたちが殺され、傷つけられていくのに、何もしてあげられません。また、自分には何ができるのかさえ分かりませんでした。そのような時に、4月に『こども会議』が開かれ、ほぼ満場一致で今回のイベントが決まりました。みんな、思いは同じでした。

『戦争で傷ついたイラクのこどもたちに何かしてあげたい』 私たちは戦争を知りません。戦争のない平和な時代に生まれてきました。しかし、それで『戦争のない平和な時代に生まれて良かった』という思いで終わ



▲力強い「こども宣言」が会場に

らせてはいけないと思います。まだ、世界中にはイラクの他にも戦争をしている国があります。戦争からは憎しみ、悲しみしか生まれません。そして、またその憎しみが戦争を引き起こすのです。その報復とも呼ばれる繰り返しの、終止符を打つ方法は「広く全体をみつめる心」「相手を思いやる心」ではないでしょうか。戦争をひとつも体験したことのない私たちは、理想を言っているのかもしれませんが、私たちは、その心も一緒にイラクに伝えたいと思います。

みんながそれぞれの思いを込めて、「生懸命作ったパッチワーク。そして昔ながらの日本の遊びである、お手玉、けん玉」。短いひと時でしたが、私たちは時間を忘れて楽しむことができました。

国も言葉も、育った環境も違うけれど、ひとつの遊びを通じて同じ笑いを共有できたら、それは素晴らしいことだと思えます。こどもだけでなく世界中の多くの人々が、何かひとつの出会いやきっかけを通して、喜びや悲しみ、そして、同じ時を共有する楽しさを味わうことができたなら、この世から戦争という名の憎しみ合いはなくなるのではないのでしょうか。戦争が好きな人など、本当は1人もないはずです。

きつと、いつの日か笑顔でイラクのこどもたちと出会える日がくると信じています。

2003年8月3日

第9回 夢みるこどもキャンペーン

『日本の心を イラクのこどもたちへ』参加者一同

「はつくくん1号」のパートナーは主婦・脇崎恵子さん(福岡県筑紫野市)

いふもの頃から

一人で電車に乗るのが「夢」

盲導犬「夢みる」ことも基金・はつくくん1号」の飼育者である福岡県筑紫野市天拝坂、主婦脇崎恵子さん(四一)の自宅は、私鉄の西鉄二日市駅から南へ約二キロ、天拝坂山麓に広がる新興住宅地。買い物や、電車、バスに乗るのも、目の不自由な恵子さんにとって苦痛であった。「はつくくん1号」と出会ってからは白杖が消え「新しい世界が広がった」という言葉に実感がこもっていた。

恵子さんは、正確に言えば「中途失明者」。生まれたときから強度の弱視で、小学生のころの視力は0.1。度の強い眼鏡をかけても手元の物がおぼろげに見える程度。二十二歳のときに会社員の剛久さん(四四)と結婚、二人の男子にも恵まれたが、視力は落ちる一方。二十六歳のときに網膜症を発病、全盲状態に陥ったという。一家から笑顔が消えたのもそのころだ。

剛久さんと恵子さんは、市役所の紹介で盲導犬のことを知り、福岡盲導犬協会を訪れ相談した。三年前、同協会に盲導犬使用者の申し込みをし、テスト、訓練のあと、やっと「はつくくん1号」を迎えることができた。その喜びを恵子さんは「子どもの頃から一人で電車やバスに乗るのが夢。はつくくん1号は家族の一員で、一生のパートナーとして暮らしていきます。夢みることも基金の善意

に感謝しています」と語った。

恵子さんは、昨年十二月、福岡県前原市の同協会盲導犬訓練センターで約一年間、訓練された「はつくくん1号」と顔を合わせ、一週間、合宿して歩行訓練などを行った。その一日JR前原駅。改札口、階段、列車が発着するホームでの実習を繰り返したが「はつくくん1号」に落ち着きがなく、恵子さんも不安げ。指導の桜井昭生所長から「命令は声を大きく、はっきりと」「うまくいったらほめてやること」など、指導され、犬との信頼関係の大切さを教えられた。

それから半年、「はつくくん1号」は太り気味ではあるが、見違えるほどに落ち着き、恵子さんとの呼吸もぴったりで、かけがえのない「家族」の一員となっている。

日本での盲導犬の歴史は浅く、昨年十月やっと「身体障害者補助犬法」が施行され、盲導犬や介助犬、聴導犬とともに、デパート、食堂、ホテルに入場でき、一定の条件をクリアすれば電車、バスにも乗車できるようになった。また、「クイールの一生」という話題作のテレビ放映などもあり、盲導犬への理解も高まってきている。

しかし、福岡盲導犬協会の大山徳次郎常務理事によると、「確かに世間の理解は進んでいるが、外国と比べると入り口に過ぎない」という。盲導犬実数を見ると、米国約六〇〇〇頭、英国約四〇〇頭に対し、国内は九二七頭(三月三十一日現在・同協会調べ)と少ない。希望者(待機者)は約八〇〇〇人以上という。

適格犬の確保が難しいこともあるが、育成資金が不足し、すべて企業、団体、個人のボランティアに頼っているのが実情だ。訓練指導員の不足も課題となっている。大山常務理事は「このボランティアに一人でも多くの方が参加していただくよう願っています」と話している。



▲中村直理事より脇崎さんのもとへ

日本顎咬合学会も基金後援団体に…

学会会場に

こども基金展示コーナー設置



▲入会手続きをする歯科医師の先生たち

日本顎咬合学会河津寛会長・会員5500人は平成15年1月に、夢みるこども基金の理念や活動に賛同し、会を挙げて基金の後援を決定。さつそく多数の会員の方に、キャンペーンの「協力歯科医院」に入会して頂いた。

同学会は国内最大の学術団体。「歯科医業が社会から評価され受け入れ

られるためには、本業以外での社会貢献に積極的に取り組むことが必要」との観点から後援に踏み切ることになった。その第一歩として6月14、15の両日、東京国際フォーラム（東京都千代田区丸の内）で開催した「第21回日本顎咬合学会学術大会・総会」の一般都民を対象にした公開シンポジウムを夢みるこども基金の協賛とした。

基金はこれを受けて当日、アグネス・チャン理事と古市悟理事、長尾怜美実行委員、事務局スタッフら計5人が参加。会場の一角に基金のコーナーを設けて、これまでのキャンペーン活動のパネル展示などでPR活動を展開。アグネス・チャン理事は「口福人生って何ですか」と題した公開シンポジウムにシン



▲3,500人が参加、大盛況の学会

このあとアグネス・チャン理事は会場の一角の基金のコーナーに立ち、協力歯科医院への入会を呼びかけ、

ポジストの一人として参加。歯科医師や一般の人たちに、夢みるこどもキャンペーンの設立から9年間の活動などを説明。「こどもたちが夢みることを忘れたら大変、みなさんも私たちの仲間になってこのキャンペーンを育てて下さい」と呼びかけた。

また、夕方から開かれた会長招宴パーティでは、長尾怜美実行委員（九州歯科大学二年）もアグネス・チャン理事と一緒にステージに上がり、自分が小学校5年の時に、第1回キャンペーンの『私がかねえたい夢』の作文コンクールに応募。最優秀賞に選ばれて、阪神・淡路大震災で両親を亡くしたこどもたちを熊本県阿蘇に招き、大自然の中で交流したイベントにつながったことを披露。「これがきっかけになって薬剤師を目指していた自分

多数の歯科医師の方々が列を作り、つぎつぎと入会手続きをした。2日間で1200人が入会。既入会者を含め日本顎咬合学会のキャンペーン参加者は気に膨らんだ。

河津会長の話「歯科医業を始め、企業に対する社会の目は年々厳しくなっており、社会的貢献等への取り組みなど企業理念を含めたものが評価の対象になっている。夢みるこども基金の後援はそんな背景から生まれたもので、私たちもこどもたちと一緒に夢を実現していくことを楽しみにしています」。



▲ステージで挨拶する長尾さん

夢みるこども基金は、今年も、「ネパール歯科医療協力会」に三十万円、「福岡・ネパール児童教育振興会」と、バングラデシュ・カラムディ村の「夢みるこども基金学校」に各十万円を寄付します。この三団体の活動を紹介します。

14年間続く活動が地域へ浸透

ネパール歯科医療協力会

理事長 中村 修一

私たちネパール歯科医療協力会は1989年に活動を始め、これまでの14年間に16回ミッションを派遣しました。その結果、11箇所のフィールドで1万1千761人に歯科診療を、3万1千117人に保健活動を実施しました。14年間で、プロジェクトの内容が歯科診療中心のメディカルケアから、予防歯科や学校歯科保健などヘルスケアに移行しました。また活動の主体はネパール人が一方的に治療を受ける依存型から、現地スタッフの自発的参加による自立型にシフトしました。さらに活動対象は、個人から集団を経て地域へと広がっています。

本年度は夏隊と冬隊を現地に派遣します。夏隊は雨期のカトマンズで活動を行い、予定の40名を大きく上回る61人の村人に診療を実施し無事帰国しました。この実績をもとに、これから冬隊の準備を進め37人の隊員が12月23日に出国する予定です。

私たちはNGOなので活動が比較的自由であり、誰でも参加でき、現地で顔の見える国際協力が可能ですが、逆に資金面では予算の獲得に苦労しています。今年も「夢みるこども基金」から援助金をいただきました。本当にありがとうございます。貴重な財源として大切に使用させていただきます。

学校運営に自立心高まる

福岡・ネパール児童教育振興会

会長 篠隈 光彦

ネパールの福岡ニルマルボカリ小学校は、地元からの強い要請により、中学校(6-8年)を開校し、こどもたちは今まで以上に安心して勉強できる環境ができました。校舎を建設することは難しい問題ではありませんが、むしろ、10年間の限定支援期間(2008年3月

まで)を過ぎた後の、学校運営が可能かどうかが問題でした。今回、学校運営委員会より自立運営の計画ができ、検討合意の上、開校に至りました。

図書館、フェンス、グラウンドといった施設の整備は整って参りましたが、元来自然の中で、受動的感性の依存心の強い村人が、自立するための方法を提示したことは格段の人間改善であり、特に、公益的向上のための努力をしようとする意識に、今後の益々の発展を期待できます。

現地ではこの学校のことを「フクオカ」と呼び、親しまれています。今年11月にこの「フクオカ」のこどもたちと会うため、私も仲間たちと一緒に訪問する計画があり、この上ない楽しみです。

最後になりましたが、夢みるこども基金より賜りました助成金は、尊い思いを順守致しまして、有効に適切に使用させていただきました。深く感謝申し上げます。

夢みるこども基金学校 中学校を開校

ラフマン・モクレスール

(こども基金学校日本側窓口)

バングラデシュ・カラムディ村「夢みるこども基金学校」は保護者や地域住民の強い要請で、今年1月から中学校を開校しました。

そこで、今年の8月9日から21日まで現地に行つて来しました。こどもたちは、私たちに音楽や踊り、劇などを披露してくれました。学校は、こどもたちの明るい笑顔や笑い声で包まれました。地元報道関係者もこの「発表会」取材に来ていました。

中学校を開校したばかりで色々な不安や問題点もありますが、保護者や地域住民の方々と話し合い協力しながら、こどもたちの笑顔が絶えることのない学校であり続けるよう頑張つて行きたいと思つています。

今後とも、ご協力よろしくお願い致します。



バングラデシュ「夢みるこども基金学校」へ寄付

校内で募金、4万412円

福岡県篠栗町・北勢門小学校六年二組

昨年末、福岡県篠栗町の北勢門小学校六年一組より、基金事務局へ寄付金が届いた。このお金は、六年一組が学校の文化祭で行った募金活動で集めた。

募金活動は三つのグループに分かれ、一つ目のグループは劇、コント、歌のチャリティショー、二つ目が恵まれない国々の様子等を写した、スライドを使つてのプレゼンテーション。こどもたちは「心うたれた方は、少しでも構わないので募金をお願いします」と、客席に訴えた。

最後のグループは、近所の人たちや自宅から提供してもらつた物で、フリーマーケットを行い、三グループで総額4万412円を集めた。

募金活動を行つたきっかけは、「総合」という学習の中で、カンボジアのこどもたちの様子を写真で見たり、話を聞いたりして、世界には恵まれないこどもたちがたくさんいることを知り、なにか少しでも力になりたいと思つたからだという。

クラスで「集めたお金は海外のこどもたちのために使おう」と話し合つていたところに、作品募集チラシと一緒に送られてきた「夢みるこども基金だより」で、バングラデシュ・カラムディ村の「夢みるこども基金学校」のことを知り、寄付することが決まった。

こどもたちは基金学校のこどもたちへ「悲しいこと、つらいことがあつても明るく元気に頑張つて下さい」とメッセージも託した。こどもたちの美しい澄んだ目から、平和を願う小さな想いが伝わってくる。



主役はこどもたち、 歯科医師を中心とした大人が応援団

夢みるこども基金理事長
日本歯科医師会会長



臼田 貞夫

歳月の流れは本当に早いもので、夢みるこどもキャンペーンが平成6年(1994年)にスタートしてすでに9年。来年は節目の10年目になりますが、それを前に今年は全国のこどもたちから寄せられた『私がかねえたい夢』の作文、イラストがこれまで最多の2,773点になりました。「こどもたちの無限に広がる夢を育てよう」という私たちの願いが着実に根付き、広がっていることの裏付けで、私も大変喜んでいきます。

こどもたちの純粋で、そして鋭い視点、感覚にはいつも驚き、感心しているのですが、今年の作品はイラク戦争に関するものが圧倒的に多く、戦争で傷付いたイラクのこどもたちを励ましてあげようという優しさがにじんでいました。その願いを実現した今回のイベントは、タイムリーだったのではないのでしょうか。

いつの時代でもこどもたちは社会の宝であり、私たちの希望でもあることを改めて実感しました。主役のこどもたちを、歯科医師を中心とした大人が応援団になって、こどもたち

ちの夢を膨らまし、潤いと希望に満ちた社会づくりを目指すこのキャンペーンをさらに充実させていく必要があると思います。

それを支えてもらっているのは、不要になった金属冠を基金事務局に送って頂いている歯科医師の先生方です。私もキャンペーンの輪を広げるために、先頭に立って頑張つて参りますので、皆様のご理解とご協力をお願い致します。



戦禍のイラクで必死に生きるこどもたち

私たちは何か行動したい

夢みるこども基金理事



アグネス・チャン

「戦争で苦しむこどもたちのために何か行動したい」「イラクのこどもたちを助けない」「春のこども会議で、日本のこどもたちがイラク戦争について、たくさん意見を出し合いました。その時、私は「イラクへ行って日本のこどもたちの気持ちを、イラクのこどもたちに伝えたい」と思いました。

6月21日から28日まで、私はまだ戦火の消えないイラクの南部の都市、バスラに入りました。こどもたちは、少しでもお金を稼ぐために、危険とは知りながらも、散乱している不発弾を拾って、その金属を市場で売ろうとしています。拾った不発弾が爆発して、怪我をしたり命を落としたりするこどもが絶えません。病院は、汚染された水を飲んで下痢することもあり、ガソリンにかかってしまったこどもたち、栄養失調のこどもたちであふれていました。しかし、病気を治す薬や器具もないため、「運ばれてきても、助けることができません」と医者たちは言っていました。戦争で犠牲になった人々の墓では、すすり泣きをする家族の姿が目につきました。そんなイラクの

中で、たくさんこどもたちが今も必死で生きようとしています。

夏のイベントで、再び日本の「夢みるこども基金」のこどもたちと会い、私はイラクの惨状を、現地で撮ったスライドで報告しました。「イラクの宝は地下に埋まっている石油ではない。地上に生きているこどもたちです。そのこどもたちが満足に食べられて、教育を受けることができ、新しいイラクを作っているように応援していきたい」と私が言ったとき、会場で聞いていたこどもたちの真剣なまなざしが忘れられません。

イベントでは、みんなで日本古来の遊び道具を作り、イラクのこどもたちに支援金と一緒に贈ることにしました。また、イベント最後では、こどもたちが声をそろえて「こども宣言」を朗読しました。その熱い思いが会場みんなに伝わったと思います。こどもたちは、この夏で少し心がたくましくなったように感じました。「夢みるこども基金」をこれからも応援していきたいです。

基金創立10年目に向かって

東京都歯科医師会も

後援参加

歯の金属冠リサイクルで、こどもたちの夢を育み、恵まれないこどもたちへの福祉にも役立てようと、一九九四(平成六年)福岡市で始まった「夢みるこどもキャンペーン」(理事長・臼田貞夫日本歯科医師会会長)は、今春で満九年を迎えました。

このキャンペーンは、日本歯科医師会の全面的な協力と厚生労働省などの後援でスタートしました。平成15年には、新たに東京都歯科医師会も後援に加わり、これまでに四十七都道府県の一八三二件の歯科医院、大学病院、関係医療機関が参加、寄せられた浄財は、二億五千万円を超えました。

これらの貴重な浄財をもとに、夏休みにこどもたちの夢をかなえるイベントを開催したり、ボランティア団体などへの寄付を続けています。今後、歯科医院の先生方を始め、一人でも多くの方たちのお力添えをいただき、来年の十年目に向かってキャンペーンの輪をさらに広げて行きたいと思えます。皆様の一層のご協力、ご支援をよろしくお願い致します。

ご協力・ご支援をよろしくお願い致します。

第十回『わたしのかなえたい夢』

作文・絵大募集

「夢をみんなで見たい！ 実現させよう！」

夢みるこどもキャンペーンは全国のこどもたちから「かなえたい夢」の作文・イラストを募集しています。第九回の募集では、全国の小中学生からこれまで最多の二、七七三点(作文二、一五九点・イラスト六一四点)が集まり作文の部の最優秀賞は北海道・黒松内中学校一年弘中香乃実さん、優秀賞は福岡県・木屋瀬中学校二年常廣あずささん、神奈川県・一色小学校五年望月ひかりさん。他特選八名・入選二十四名・佳作五十三名。イラストの部の最優秀賞は福岡県・苅田小学校六年坂田剛希さん、優秀賞は長崎県・中津良小学校五年大石幸さん、長崎県・茂木小学校六年前田亜希さん。他特選八名・入選七名・佳作三十二名が選ばれました。

今回の募集は十回目の節目の年でもあります。これまで以上にたくさんの方のこどもたちから、すばらしい「夢」を集め、実現したいと思っておりますので、皆さんの応募をお待ちしています。

こどもの夢が
かなうまで!!

① 作文・イラストの募集

毎年、「私がかねたい夢」をテーマに公募。対象は全国の小学4年生～中学2年生まで



② 審査

「夢みることば基金」理事会・実行委員会にて、作文・イラストを審査し、入賞者を決定



③ こども会議

春休みに入賞者を招待し、「こども会議」を開催。夏休みに「夢のイベント」を決定



④ 夢のイベント

夏休みに「こども会議」のメンバーを招待し、夢を実現させるイベントを開催

※詳細はホームページをご覧ください

これまでの夢のイベント

- H7.7.27 第1回-阿蘇こども会合の里-(熊本県・久木野町)
阪神大震災で両親を亡くした子供たちを阿蘇に招きホームステイ。こども会議の子供たちや地元の子供たちと大自然に触れ、交流を深めた。
- H8.7.25~27 第2回-阿蘇こどもみどり村-(熊本県・久木野町)
こども会議のメンバー18人、前ジストロフィーの少年526人、阿蘇宿泊先の子、理事らを含め総勢約200人が参加。雄大な自然の中で交流を深めた。
- H9.7.21~22 第3回-世界のこどもと手をつなごう-(福岡市・大手門会館)
こども会議のメンバー16人、前ジストロフィーの少年620人、バングラデシュのカラムディ村から3人、関係者も含め総勢約150人が参加。カラムディ村に「夢みるこども基金学校」建設資金を贈呈し、またネパール歯科医療協力会にも活動資金を寄贈した。
- H10.7.24~25 第4回-夢の放送局-(福岡市・キャナルシティ博多)
キャナルシティ博多のサンプラザで開催。子供たちの夢トークや、前ジストロフィーの少年バンドによるライブが行われた。また、一般市民を巻き込んで、市内中心部をラブウォークし、バングラデシュの学校教材費のために募金呼びかけした。
- H11.8.8~9 第5回-ケーキがつなぐ友情の輪-(熊本県・南関町)
5年前に熊本県阿蘇での第1回目のイベントに参加した子供たちやホームステイ先の方々なども一緒に大きなケーキ作り挑戦。出来上がったケーキを児童養護施設へプレゼントした。
- H12.8.6 第6回-アフリカの大地に根付け こどもたちの願い-(福岡県・宇美町)
農家・松田好光氏宅にて開催。内戦で苦しんでいるアフリカ・スーダンの贈る食物の種子を収穫し、ユニセフへ贈呈。その後、竹トンボ・竹馬を作り、子供たち全員で遊んだ。翌日、児童養護施設 和白青松園(福岡市)に贈呈した。また、世界こども言葉祭も開催。
- H13.8.5 第7回-バリアフリーの社会を作ろう-(福岡市・TNC放送会館)
疑似体験コーナー(盲導犬・車イス・点字・手話・老人)を設置して、子供たちが様々な障害を実際に体験した。これをもとに「こどもシンポジウム」を開催。バリアフリーについての子供の意見をまとめ、「こども宣言」として小泉首相や各種行政機関などへ届けた。
- H14.8.4 第8回-世界のこども達と交流-(福岡市・ベイサイドプレイス博多埠頭)
福岡県在住の16か国・70人の外国人の参加。歌・踊り・食・遊びを通じて国際交流をした。食の交流で一般市民から頂いた、食べ物引換券代は全て、九州大学留学生会に寄付した。
- H15.8.3 第9回-日本の心をイラクのこどもたちへ-(福岡市・7/17福岡国際会議場)
イラク戦争で傷ついたこどもたちを励ますために日本古来の遊具やパッチワークを手作りイラクのこどもたちへ贈った。また、イラクを訪れたアグネス・チャンさんが現地の様子をスライドショーで伝え、「人間の盾」に参加した木村公一さんの講演も行った。

都道府県別参加登録歯科医院内訳

都道府県	数	都道府県	数	都道府県	数
北海道	40	石川	2	徳島	1
青森	8	長野	11	香川	8
岩手	8	静岡	17	愛媛	6
宮城	15	愛知	10	高知	3
秋田	3	岐阜	6	山口	94
山形	7	三重	10	福岡	485
福島	22	福井	4	佐賀	54
茨城	22	滋賀	4	長崎	69
栃木	15	京都	4	熊本	75
群馬	13	大阪	32	大分	173
埼玉	46	兵庫	54	宮崎	53
千葉	33	奈良	6	鹿児島	116
東京	157	和歌山	4	沖縄	27
神奈川	60	鳥取	2	平成15年8月現在	
山梨	5	島根	4	会員数	1847件
新潟	16	岡山	19	新規加入	115件

キャンペーンのあゆみ

- H 5. 6.22 第1回準備会
H 6. 2.14 キャンペーンスタート
4.22 マスコットキャラクターの愛称「ハクくん」に決定
12.29 第1回 作文・イラスト募集
H 7. 3.29 キャンペーン推進組織「夢みるこども基金」設立
4.2 第1回こども会議(福岡県歯科医師会館・大ホール)
7.27 第1回イベント「阿蘇こども会合の里」開催
H 8. 1.1 第2回 作文・イラスト募集
3.24 第2回こども会議(福岡県歯科医師会館・大ホール)
3.26 神戸市にクスの苗木、ピースばらを贈呈、植樹
5.18-19 九州デンタルショーに出展(福岡国際センター)
7.25 第2回イベント「阿蘇こどもみどり村」開催
11.9-10 九州歯科医学大会に出展(熊本県)
12.10 第3回 作文・イラスト募集
H 9. 4.6 第3回こども会議(アクロス福岡・国際会議場)
5.17-18 九州デンタルショーに出展
7.21 第3回イベント「世界のこどもと手をつなごう」開催
10.25-26 九州歯科医学大会に出展(鹿児島県)
12.10 第4回 作文・イラスト募集
H10. 4.5 第4回こども会議(アクロス福岡・国際会議場)
5.16-17 九州デンタルショーに出展
7.25 第4回イベント「夢の放送局」とラブウォーク開催
10.10-11 アジア パシフィッククリニックス
デンタル ミーティングに出展(福岡市)
10.24 九州歯科医学大会に出展(宮崎県)
12.10 第5回 作文・イラスト募集
第5回こども会議(福岡県歯科医師会館・大ホール)
H11. 3.28 九州デンタルショーに出展
5.29-30 第4回イベント -夢の放送局-
7.25 福岡市博多区キャナルシティ博多で開催
第5回イベント「ケーキがつなぐ友情の輪」開催
8. 8-9 第6回 作文・イラスト募集
12.10 第6回こども会議(あいれふ10階・講堂)
H12. 4.2 九州デンタルショーに出展
5.13-14 第6回イベント「アフリカの大地に根付け
こどもたちの願い」開催
8.6 第7回 作文・イラスト募集
12.10 第7回こども会議(KKRホテル博多)
H13. 4.1 九州デンタルショーに出展
5.12-13 第7回イベント「バリアフリーの社会を作ろう」開催
8.5 第8回こども会議
H14. 3.31 (ベイサイドプレイス博多埠頭・ベイサイドホール)
6.1-2 九州デンタルショーに出展
8.4 第8回イベント「世界のこども達と交流」開催
10.19 九州歯科医学大会に出展(佐賀県)
11.1 第9回 作文・イラスト募集
H15. 3.30 第9回こども会議(ベイサイドプレイス博多埠頭)
5.10-11 九州デンタルショーに出展
6.14-15 日本顎咬合学会学術大会・総会に出展(東京都)
8.3 第9回イベント「日本のこころをイラクのこどもたちへ」開催